

技術概要書（様式）

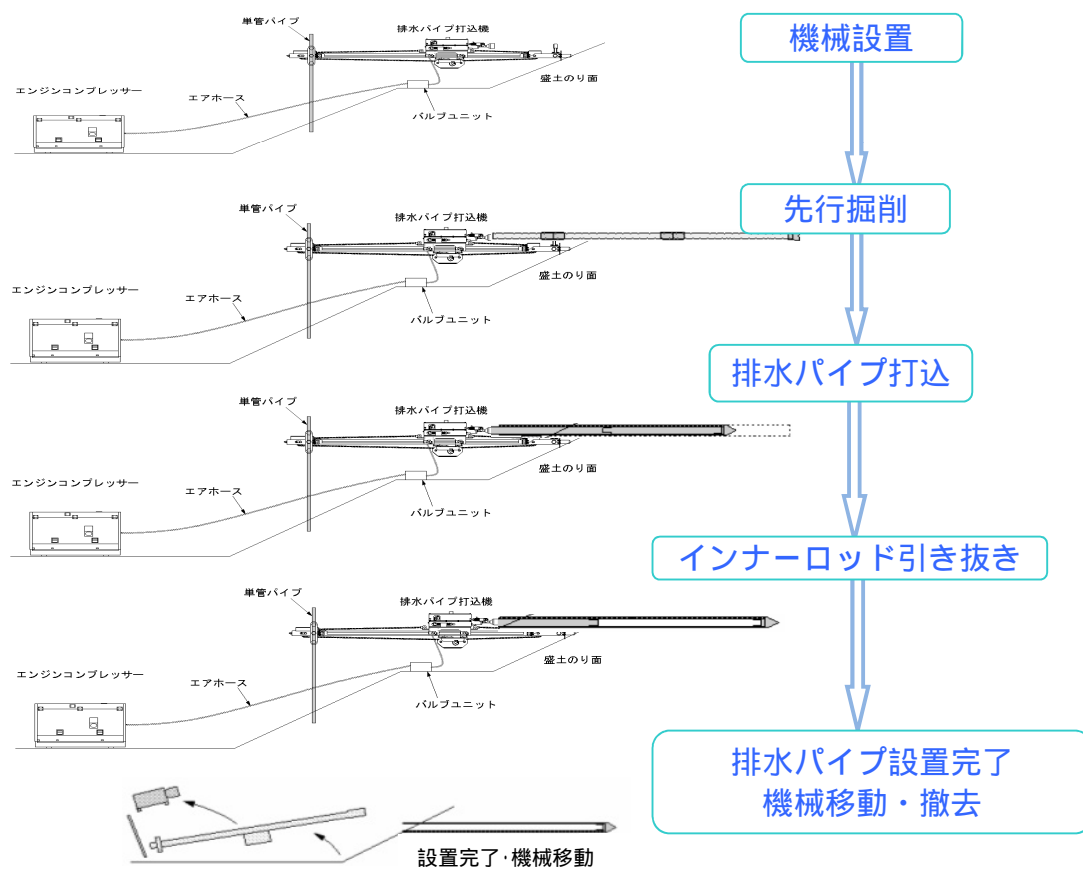
別紙2

技術分類	安全・防災 ☒ 維持管理 環境 コスト ICT 品質 (該当する分類に○を付けてください)														
技術名称	先掘り水抜き工法（先行掘削併用）	担当部署	技術開発部												
NETIS登録番号	Q S - 1 2 0 0 3 0 - A	担当者	牟田 良												
社名等	西日本高速道路メンテナンス九州㈱	電話番号	092-716-3984												
技術の概要	1．技術開発の背景及び契機 道路ののり面は大量の雨が降ると、地下水位の上昇やのり面が飽和状態となり地盤が緩み法面崩壊の恐れがあります。しかし、従来行われている排水対策工は施工機械が大型であるため、機械搬入等を考慮すると施工箇所に制約がある状況です。 また、従来の排水パイプ打込み工法は、対象地盤が当初の予想以上に硬質や礫質を含んだ地盤では排水パイプの貫入が困難になることがありました。 2．技術の内容 浸透水による法面等の崩壊防止を目的とした排水パイプを設置する技術で、先行掘削後に排水パイプを打込む工法で、塩化ビニール管・ポリエチレン管等合成樹脂管や金属管等の排水パイプが設置可能です。 3．技術の効果 ・機械が軽量・コンパクトなので狭小な現場でも機械搬入や設置・移動が容易となり、従来は施工できなかった地域での対応が可能となります。 ・大規模な作業足場や搬入路の仮設が軽減されるため、従来機に比べ行程、費用、安全面で優位です。 ・先行掘削を行うことで礫混じり土、転石混じり土にも対応可能となりました。 4．技術の適用範囲 ・施工対象地盤:粘性土、砂質土、礫混じり土、転石混じり土 5．活用実績 <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>0.0m (九州)</td> <td>0.0m (九州以外)</td> <td>0.0m</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>0.0m (九州)</td> <td>0.0m (九州以外)</td> <td>0.0m</td> </tr> <tr> <td>民間(高速道路会社)</td> <td>524.9m (九州)</td> <td>525.9m (九州以外)</td> <td>0.0m</td> </tr> </table>			国の機関	0.0m (九州)	0.0m (九州以外)	0.0m	自治体	0.0m (九州)	0.0m (九州以外)	0.0m	民間(高速道路会社)	524.9m (九州)	525.9m (九州以外)	0.0m
国の機関	0.0m (九州)	0.0m (九州以外)	0.0m												
自治体	0.0m (九州)	0.0m (九州以外)	0.0m												
民間(高速道路会社)	524.9m (九州)	525.9m (九州以外)	0.0m												

【施 工 状 況】



【施 工 手 順】



仕様

総重量: □ 100kg (ドリルヘッド: 40kg・フレーム重量: 60kg 分割式) □ 寸法: 2,990mm × 600mm ×
□ 打撃数: 1,850bpm □ 排水パイプ径: φ48 ~ 50 □ 標準施工長: 3m (最大4.5m)